

令和4年3月

令和4年	1月	～	3月期	実績
令和4年	4月	～	6月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

目次

主要景況項目の動き	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移 * 平成15年1月以降	23
[集計資料]	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

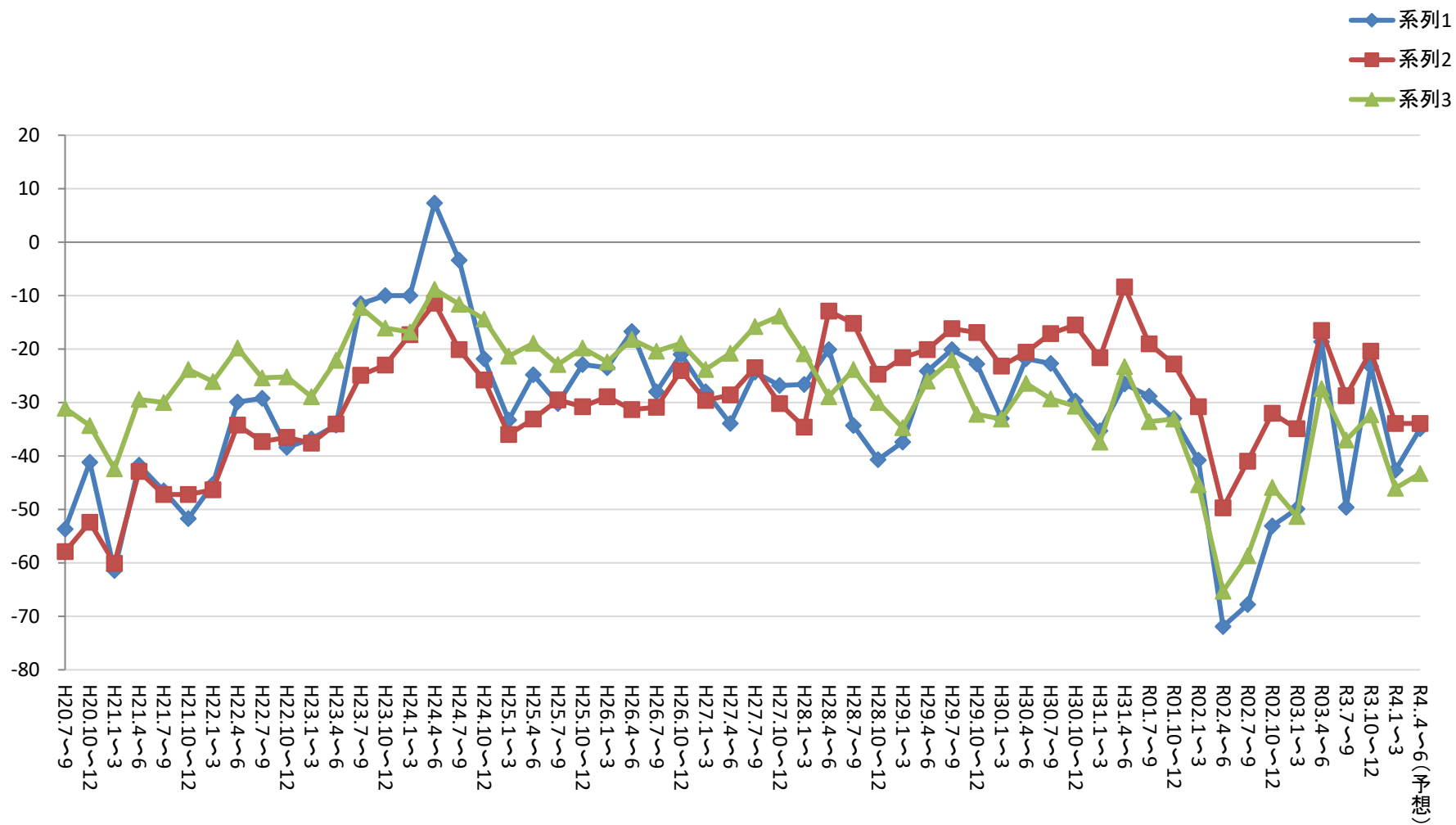
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。





































たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、D・Iは $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。






[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き ー前年同期比ー



業 況 天 気 図

業 種 \ 期 間	令和2年 4~6月	7~9月	10~12月	令和3年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	(今期) 令和4年 1~3月	(見通し) 4~6月
製 造 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 薄 曇	 曇	 曇	 雨	 曇
建 設 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇	 雨	 曇	 曇	 雨
小 売 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨
サ ー ビ ス 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇	 雨	 曇	 雨	 曇

売上高DI	100.0 ~30.1	30.0 ~10.1	10.0 ~△10.0	△10.1 ~△30.0	△30.1 ~△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

全産業の推移

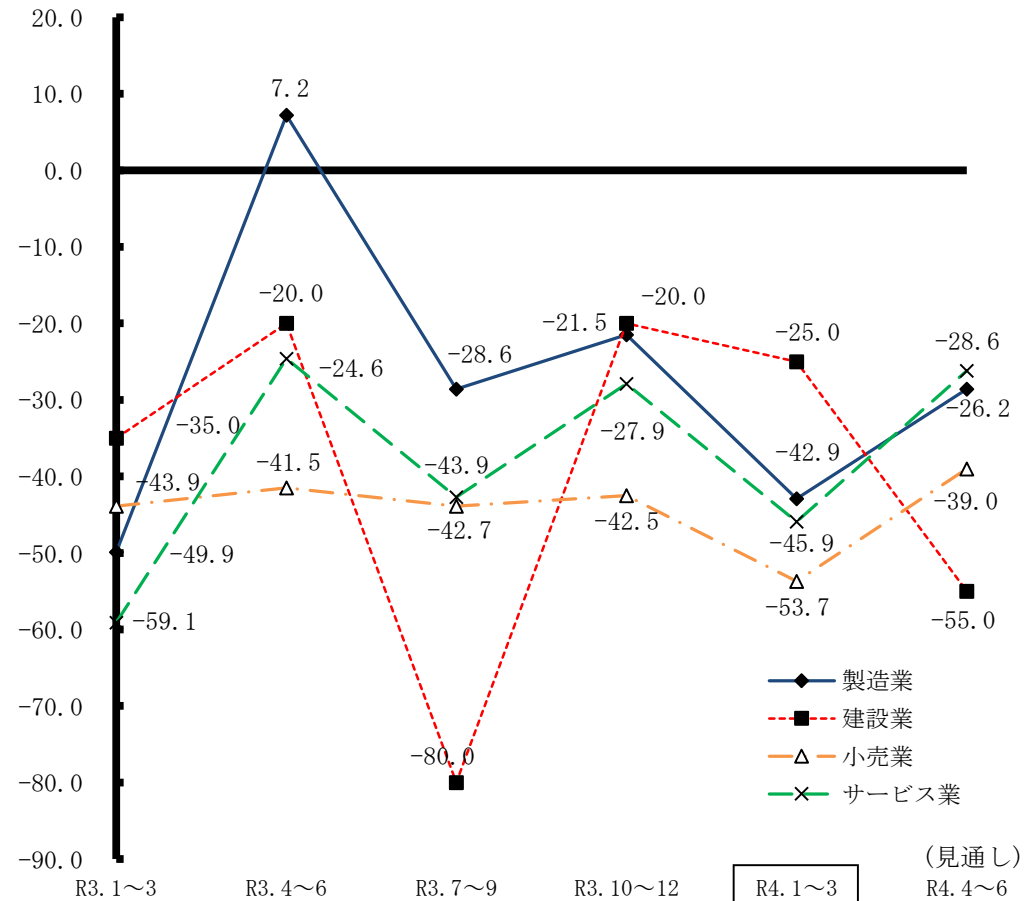
売上高

**全業種において売上高D・Iが悪化
製造業・サービス業が大幅に悪化**

今期は、全業種が悪化となりました。特に製造業は21.4ポイントの大幅な低下となり△42.9まで悪化、サービス業も18.0ポイント低下して△45.9まで悪化しました。小売業も11.2ポイント低下して△53.7まで悪化しています。建設業も下げ幅は5.0ポイントと他業種よりは小さいもののやはり低下して△25.0まで悪化しました。

来期は、今期比較的下げ幅が小さかった建設業が大幅に悪化する見通しですが、今期下げ幅大きかった製造業、サービス業、小売業は上昇に転じ、それぞれ10.0ポイント以上改善することが見込まれています。

※建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

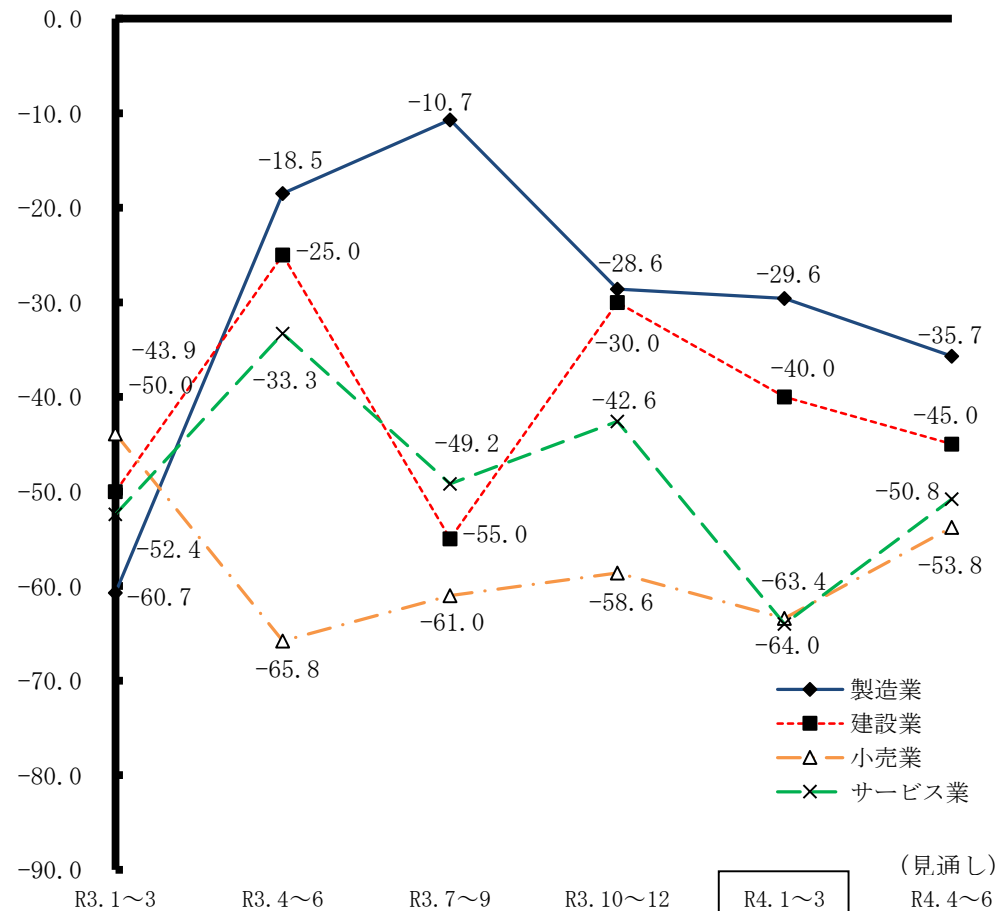
採算

**全業種において採算D・Iが悪化
サービス業が大幅に悪化**

今期の採算D・Iは、サービス業が20.8ポイントの大幅な低下となり△63.4まで悪化しました。前期大幅に改善していた建設業が10.0ポイント低下して△40.0まで悪化、製造業は小幅な低下にとどまったものの2期連続の悪化となり1.0ポイント低下の△29.6、2期連続して改善傾向にあった小売業も悪化に転じ、5.4ポイント低下して△64.0まで悪化しました。

来期は、サービス業、小売業が上昇に転じる見通しですが、製造業、建設業は今期に引続き低下してマイナス幅を拡大する見通しとなっています。

※採算は各業種とも経常利益



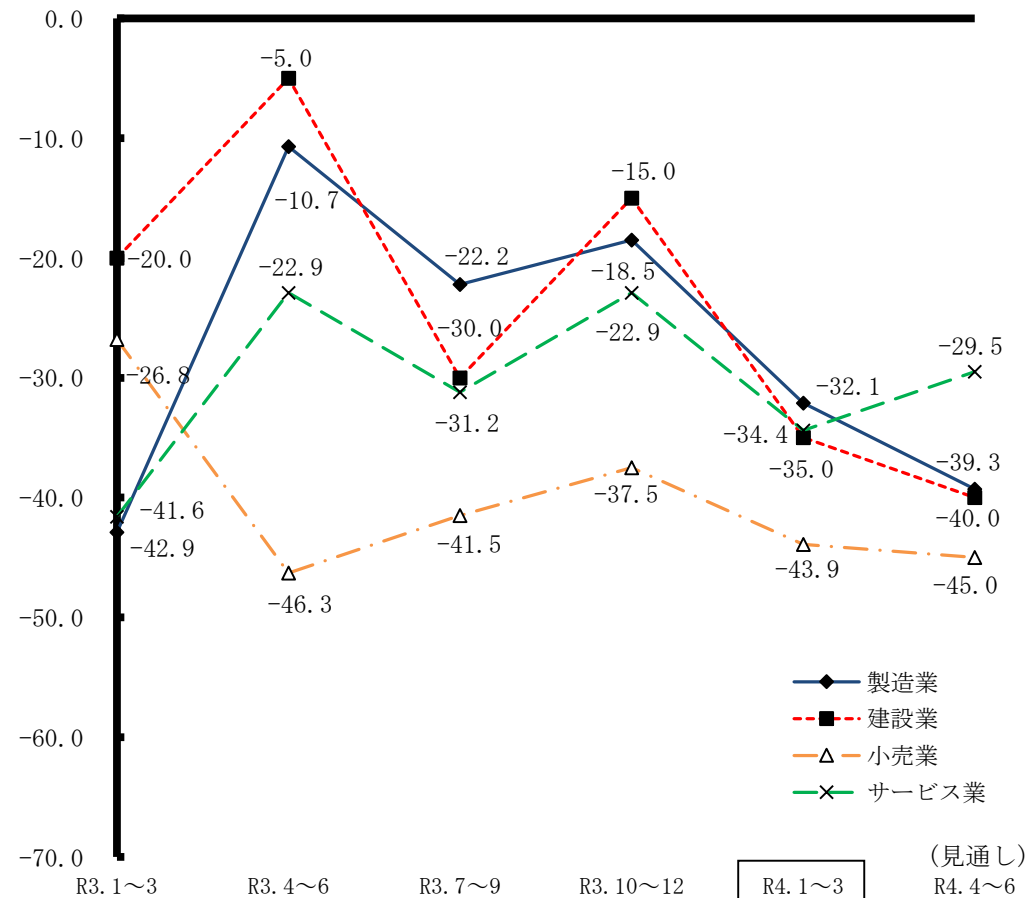
全産業の推移

資金繰り

全業種において資金繰りD・Iが悪化
建設業が大幅に悪化

今期は、全業種において資金繰りD・Iが悪化しました。前期大幅に改善していた建設業が20.0ポイント低下して△35.0まで悪化しました。また、製造業も13.6ポイント低下して△32.1、サービス業も11.5ポイント低下して△34.4まで悪化しています。2期連続して改善傾向にあった小売業も悪化に転じ、6.4ポイント低下して△43.9まで悪化しています。

来期は、製造業、建設業、小売業においては今期に引続き資金繰りの悪化が見込まれるものの、サービス業においては改善に転じる見通しとなっています。



製造業の推移

売上高

<今 期>

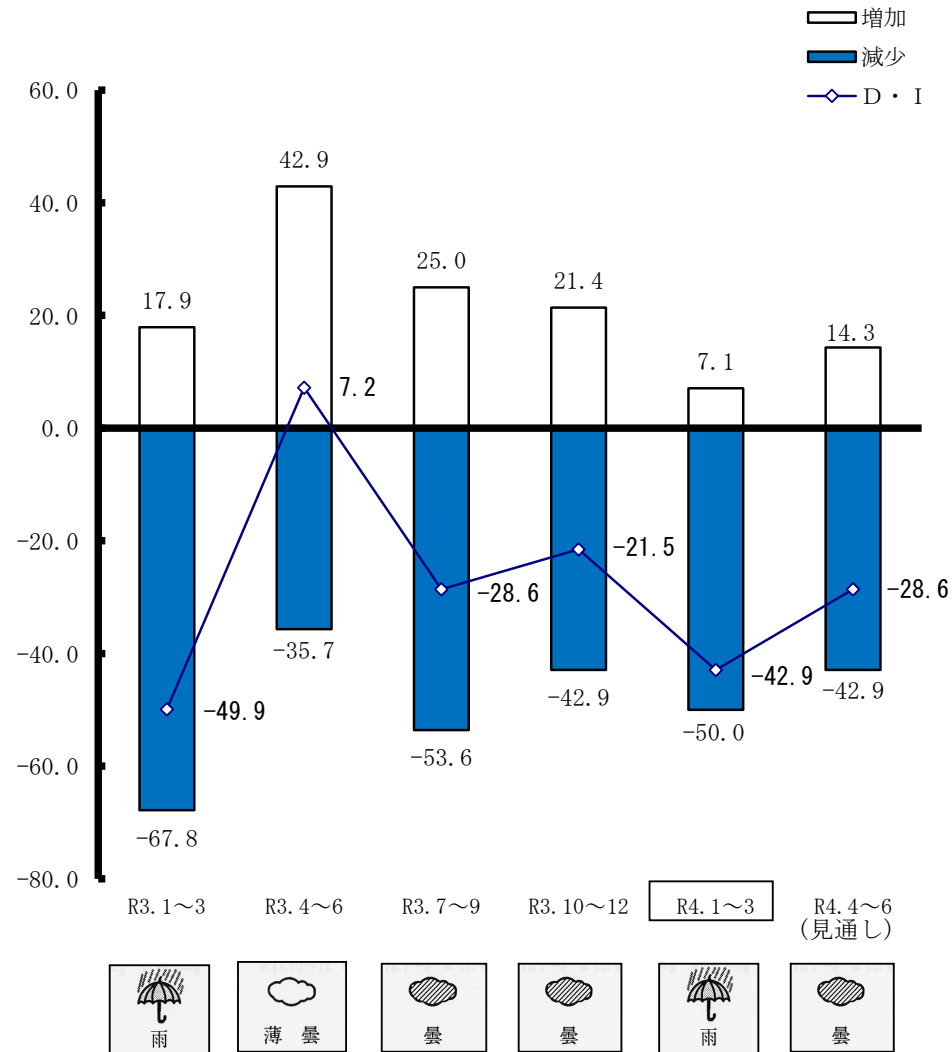


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が14.3ポイント減少し、売上高減少企業の割合が7.1ポイント増加したことから、売上高D・Iは21.4ポイントの低下となって△42.9まで悪化しています。景況天気図も曇から雨へと変化しました。

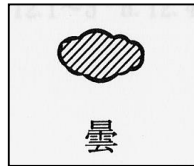
来期は、売上高の増加を予想する企業割合が増加に転じ、また、売上高の減少を予想する企業割合も減少することから、売上高D・Iは上昇に転じ、マイナス幅を縮小する見通しです。



製造業の推移

採算

<今 期>

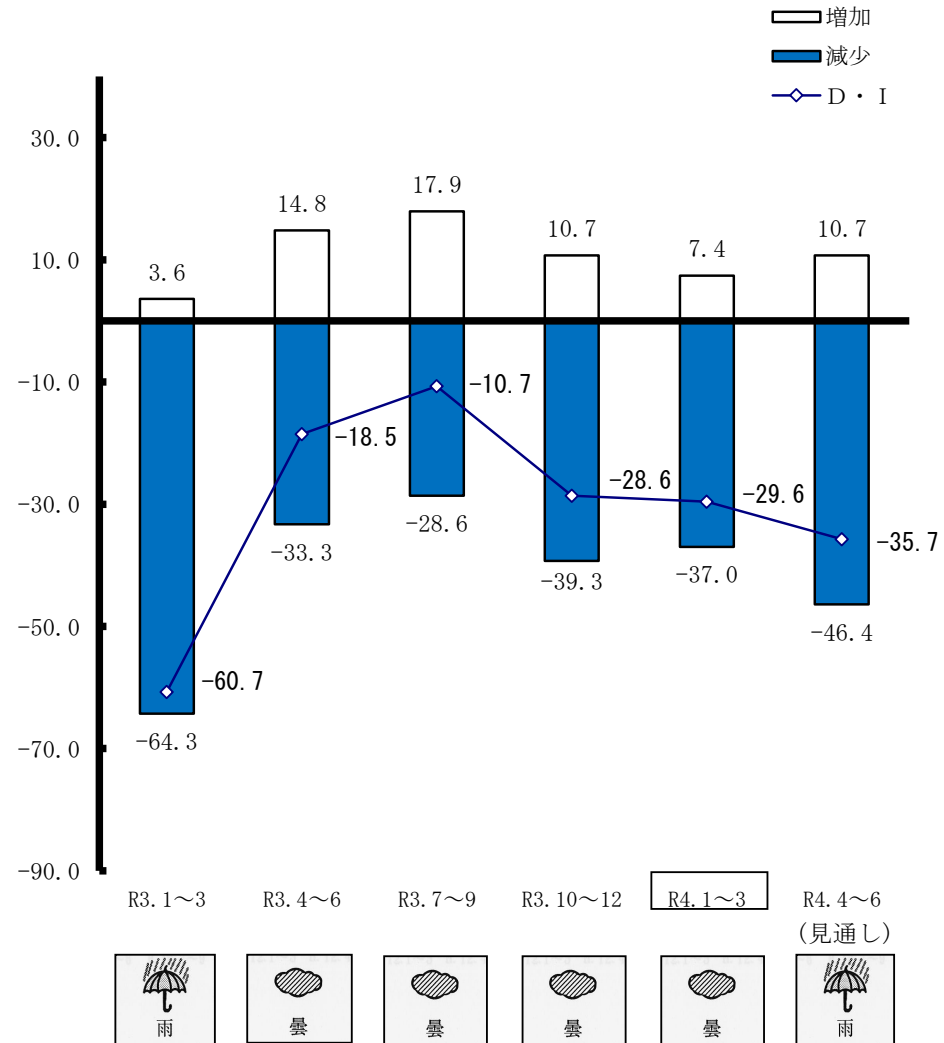


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が3.3ポイント減少したものの、採算が悪化した企業の割合が2.3ポイント減少したことから、採算D・Iは1.0ポイントと小幅な低下にとどまり△29.6となりました。

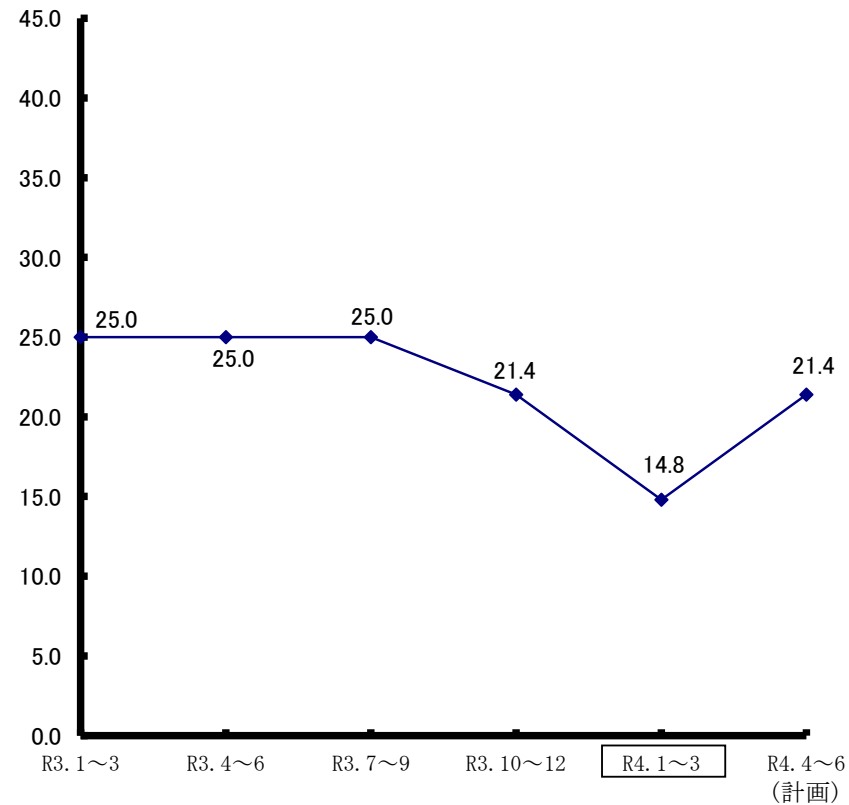
来期は、採算の改善を予想する企業は増加するものの、採算の悪化を予想する企業割合が増加することから、採算D・Iは、今期に引続き悪化することが予想されています。



設備投資

今期製造業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期から6.6ポイント減少し、14.8まで減少しました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は増加することが見込まれ、前期と同じレベルまで回復する見通しです。



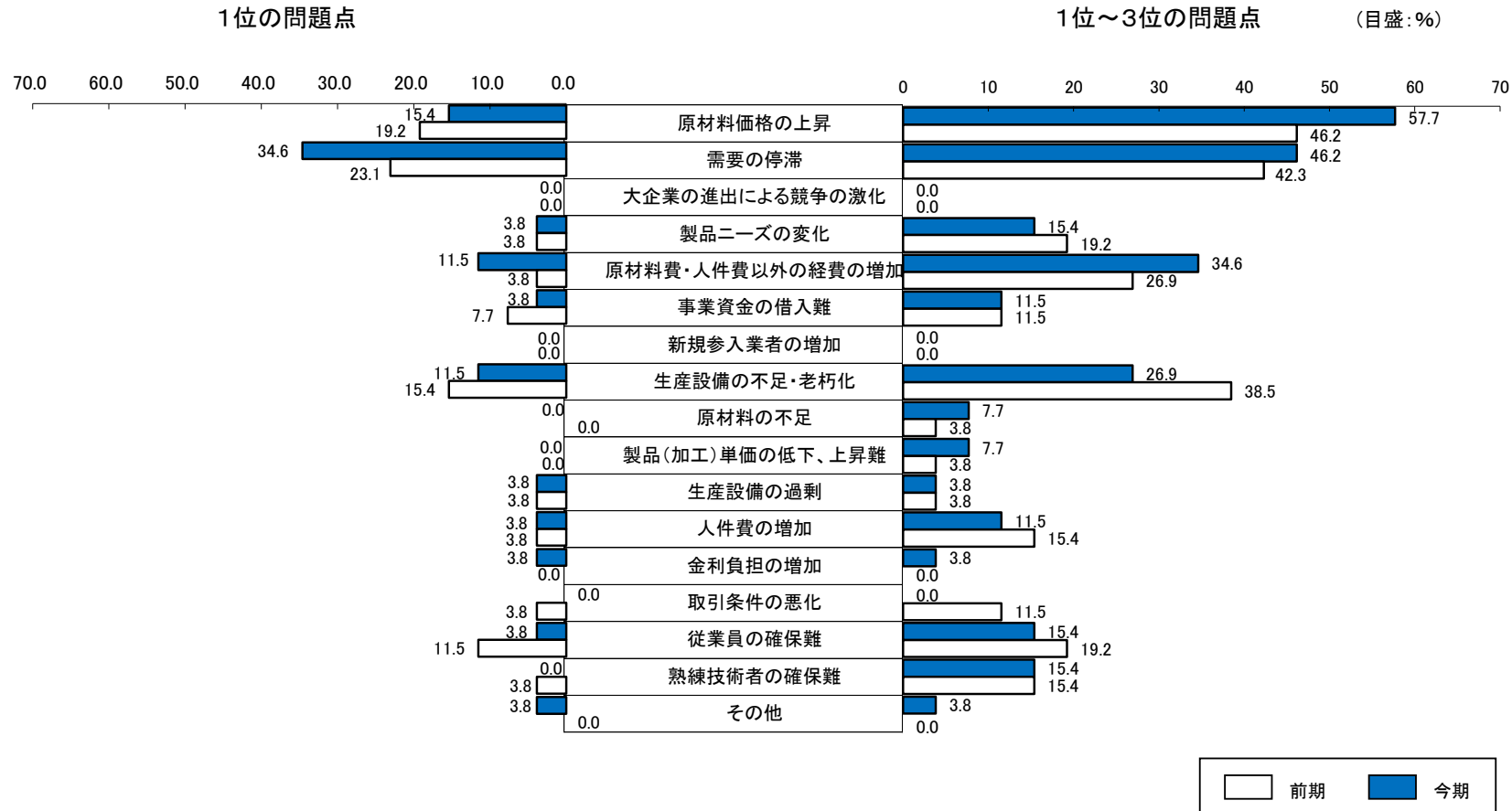
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



建設業の推移

売上高

<今 期>



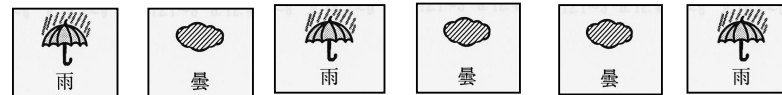
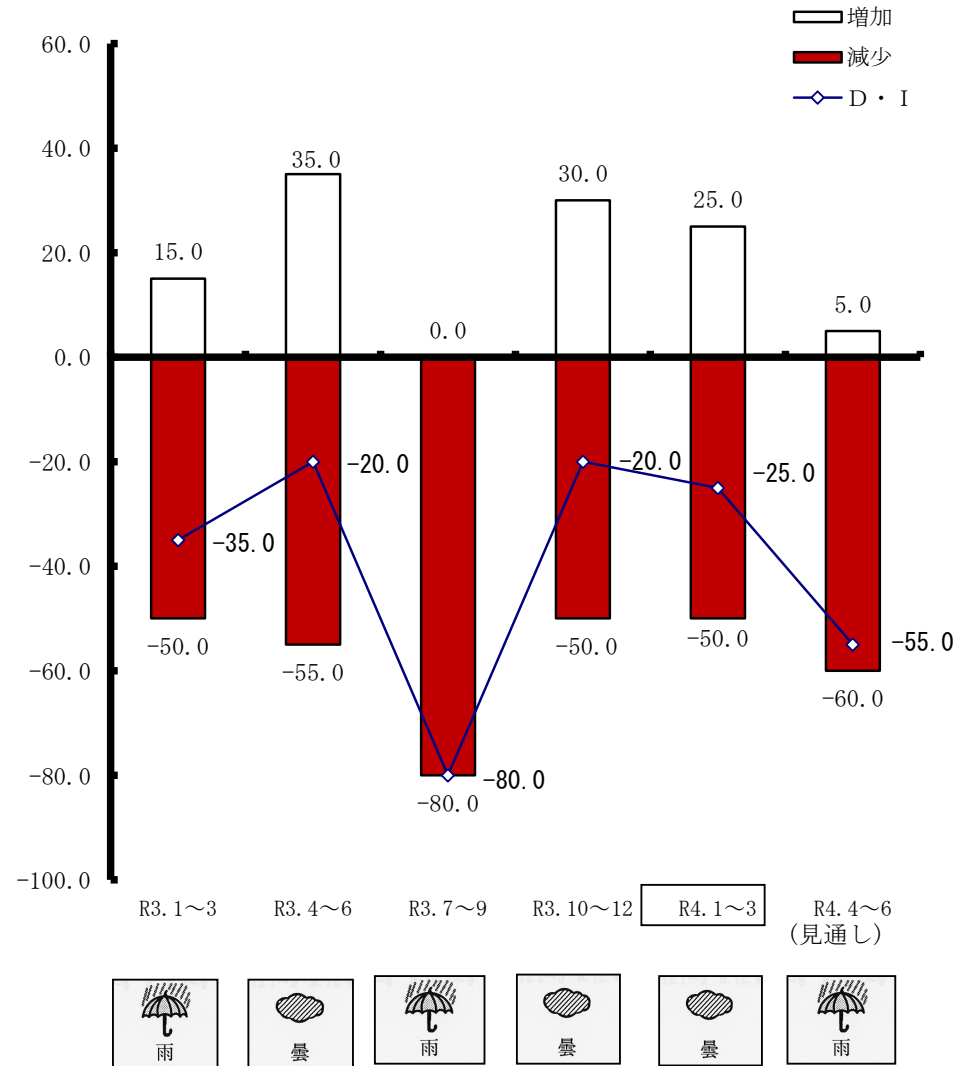
<来期見通し>



前期大幅に回復していた建設業の売上高D・Iは、今期は悪化となりました。今期は、売上高が減少した企業割合が前期と横ばいに留まったものの、売上高が増加した企業割合が5.0ポイント減少したため、売上高D・Iは低下し、△25.0まで悪化しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合が今期に引続き減少となり、売上高の減少を予想する企業の割合が増加するため、売上高D・Iは大幅に悪化し、景況天気図も曇から雨へと変化することが予想されています。

※建設業の売上高は完成工事高



採算

<今 期>

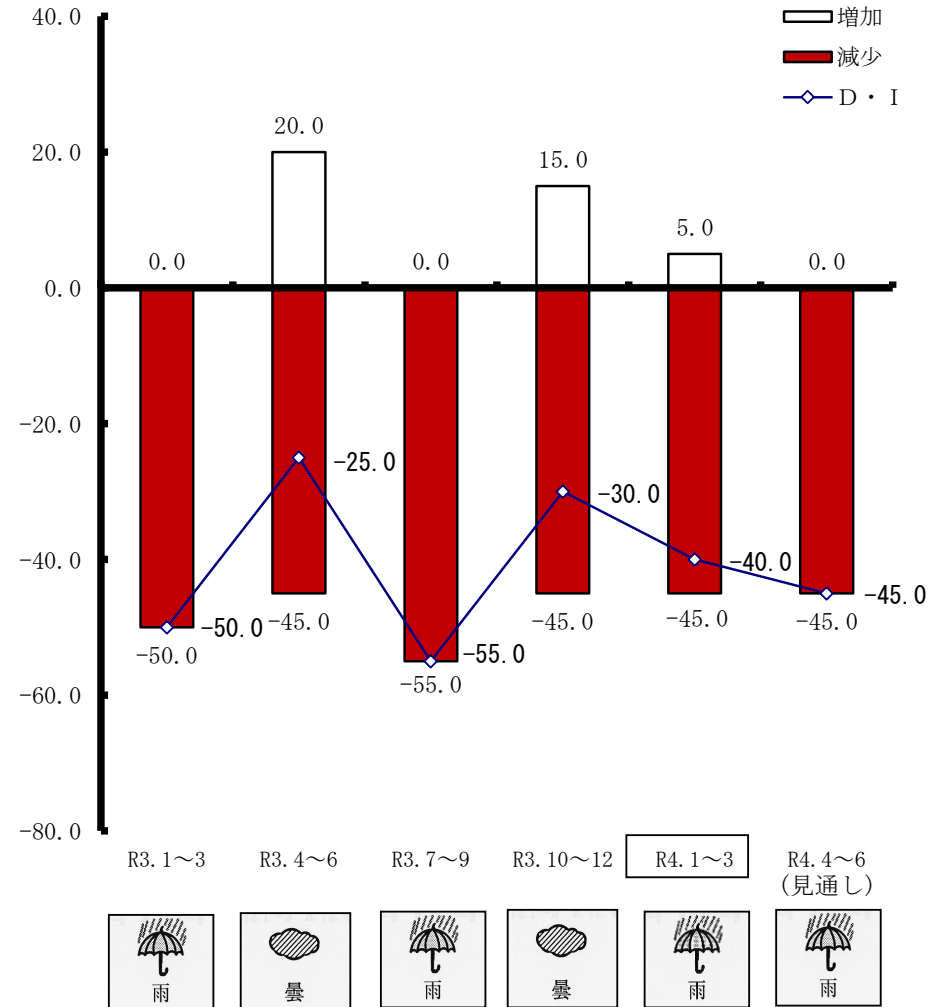


<来期見通し>



今期は、採算が悪化した企業の割合は横ばいに留まったものの、採算の好転を挙げた企業の割合が10.0ポイント減少したため、採算D・Iは10.0ポイントの低下となり、△40.0まで悪化しました。景況天気図も曇から雨へと変化しています。

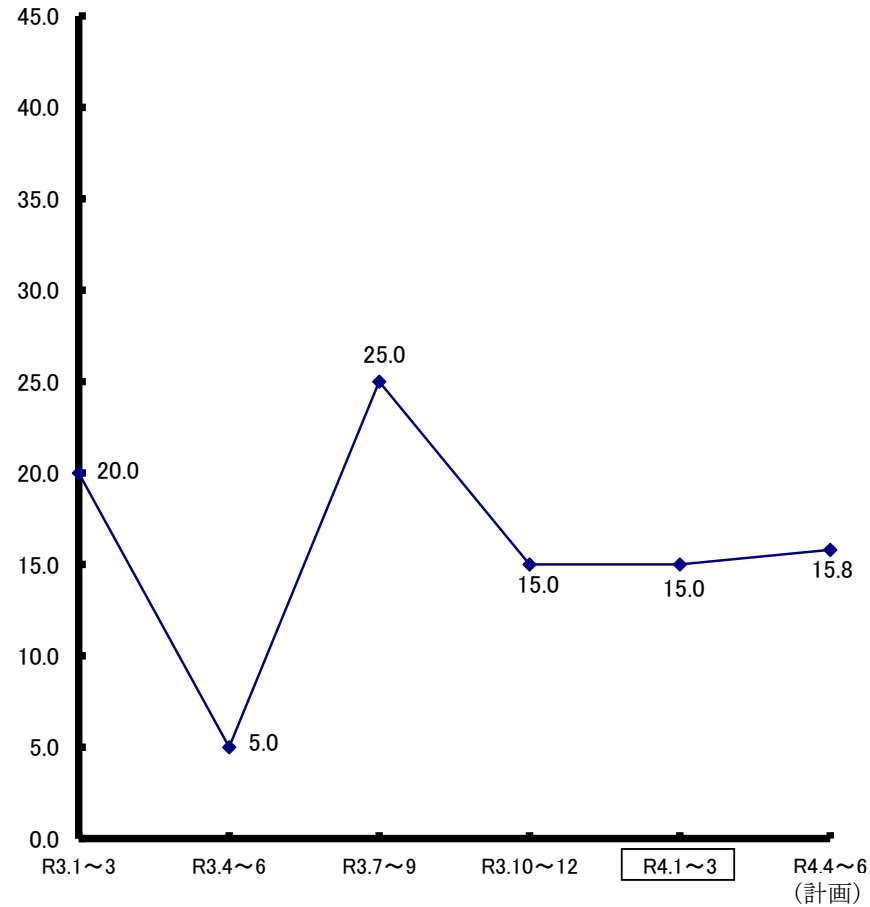
来期は、採算の悪化を予想する企業は今期と横ばいに留まるものの、採算の好転を予想する企業はゼロまで減少することが見込まれることから、採算D・Iは今期に引続き悪化することが予想されています。



設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期はと同じレベルの15.0にとどまっています。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は今期と同じレベルを維持する見通しです。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

建設業の推移

経営上の問題点

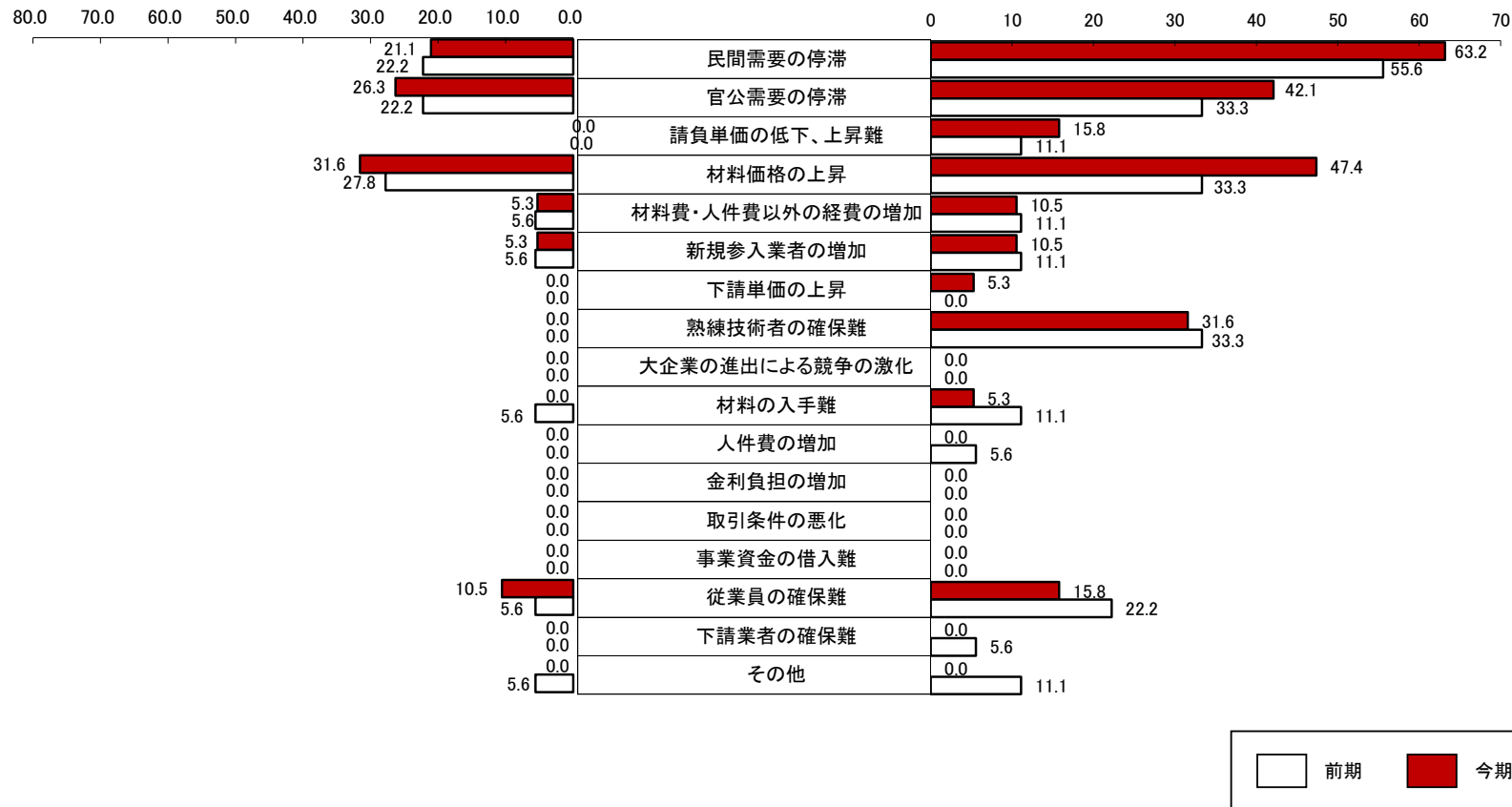
岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

1位の問題点

1位～3位の問題点

(目盛:%)



小 売 業 の 推 移

売 上 高

<今 期>

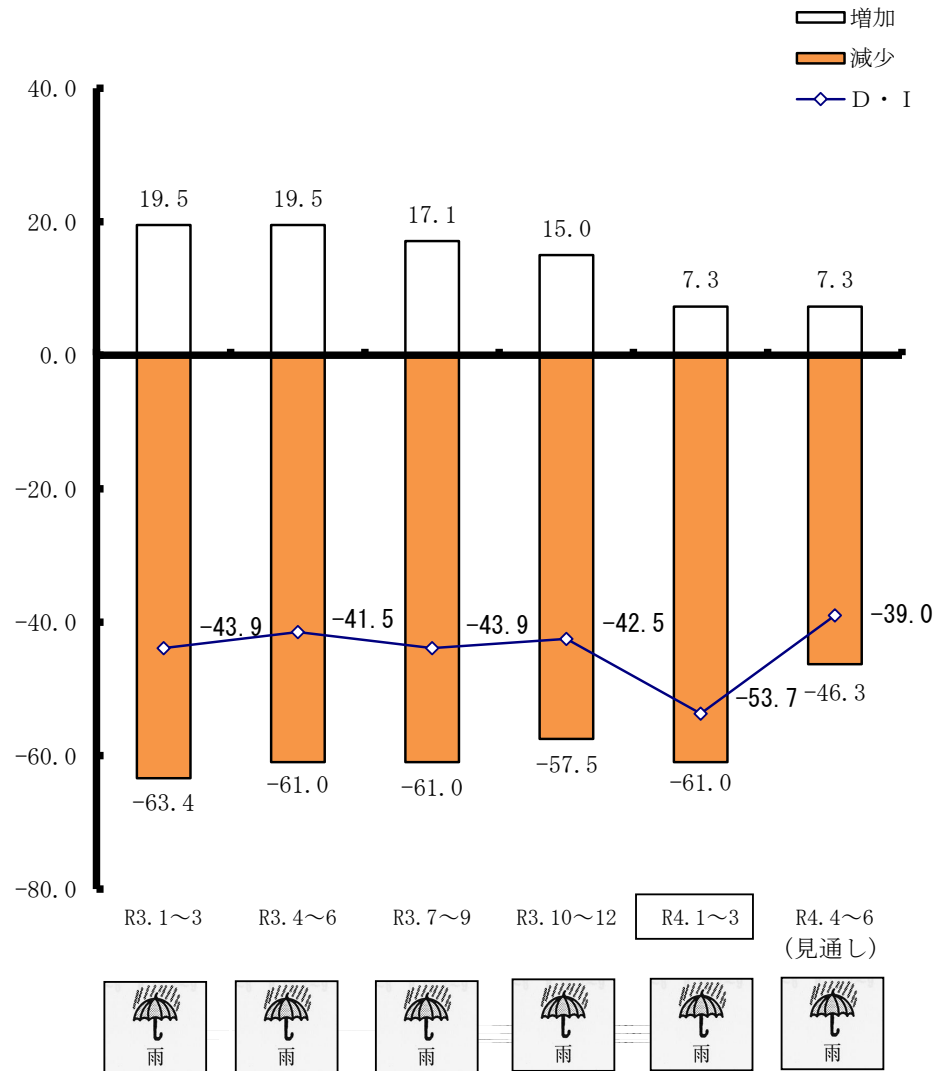


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が7.7ポイント減少し、また、売上高減少企業の割合が3.5ポイント増加したため、売上高D・Iは11.2ポイント低下して△53.7となり、マイナス幅を拡大することとなりました。依然として低い水準に留まっています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合は横ばいに留まるものの、売上高減少を予想する企業割合の減少が見込まれるため、売上高D・Iは改善に転じる見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

<今 期>

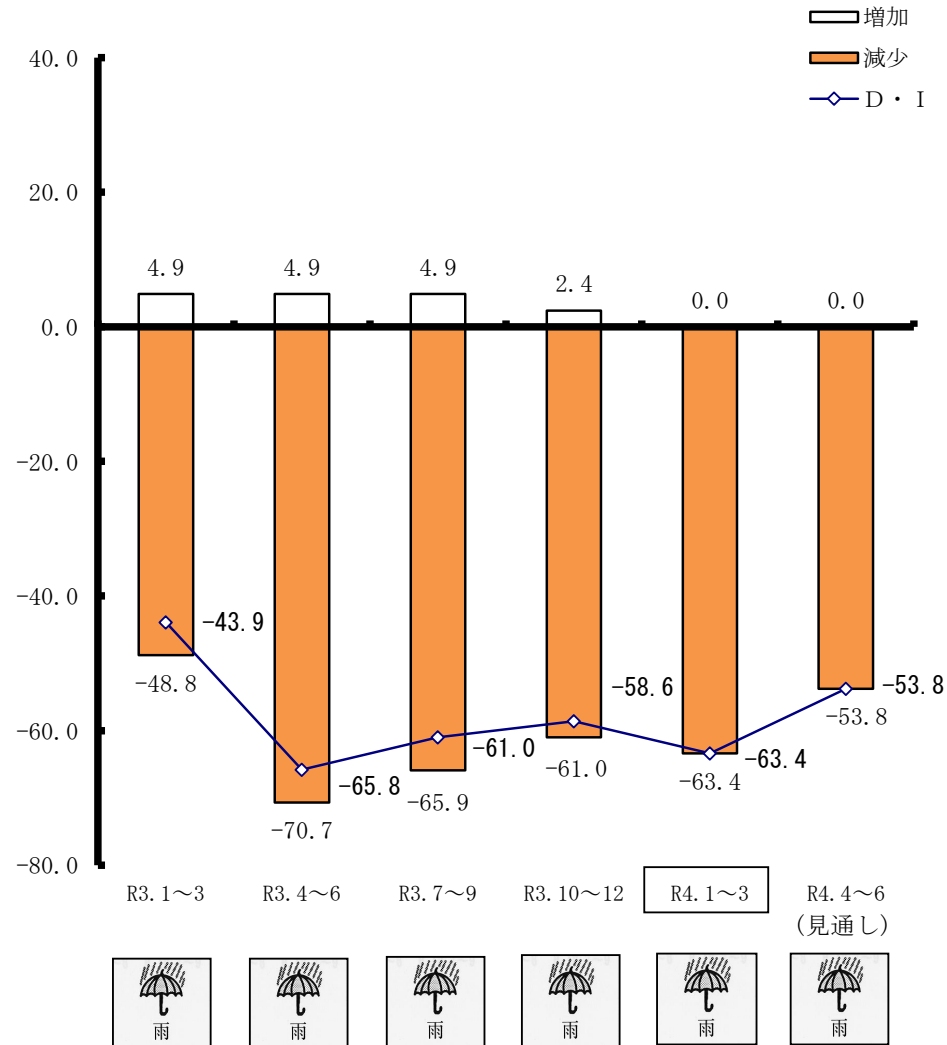


<来期見通し>



今期は、採算が好転した企業の割合はゼロまで低下し、更に採算が悪化した企業割合が2.4ポイント増加したため、採算D・Iは低下に転じ、△63.4まで悪化してマイナス幅を拡大しています。

来期は、採算の好転を予想する企業割合はゼロに留まるものの、採算の悪化を予想する企業割合が減少するため、採算D・Iは上昇に転じ、△53.8まで改善し、マイナス幅を縮小する見通しです。

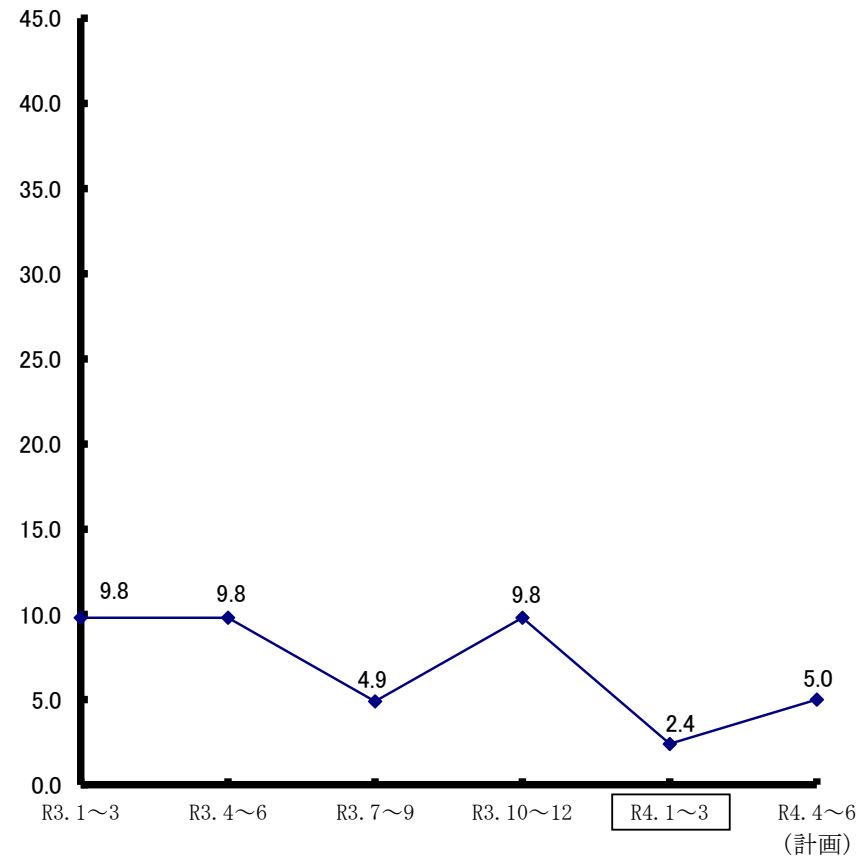


小売業の推移

設備投資

小売業において今期設備投資を実施した企業数の割合は減少に転じ、2.4まで低下しました。低い水準で推移しています。

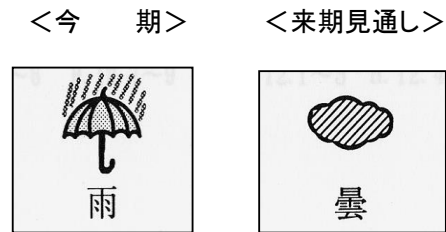
来期は、設備投資を計画している企業数の割合は増加に転じる見通しです。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

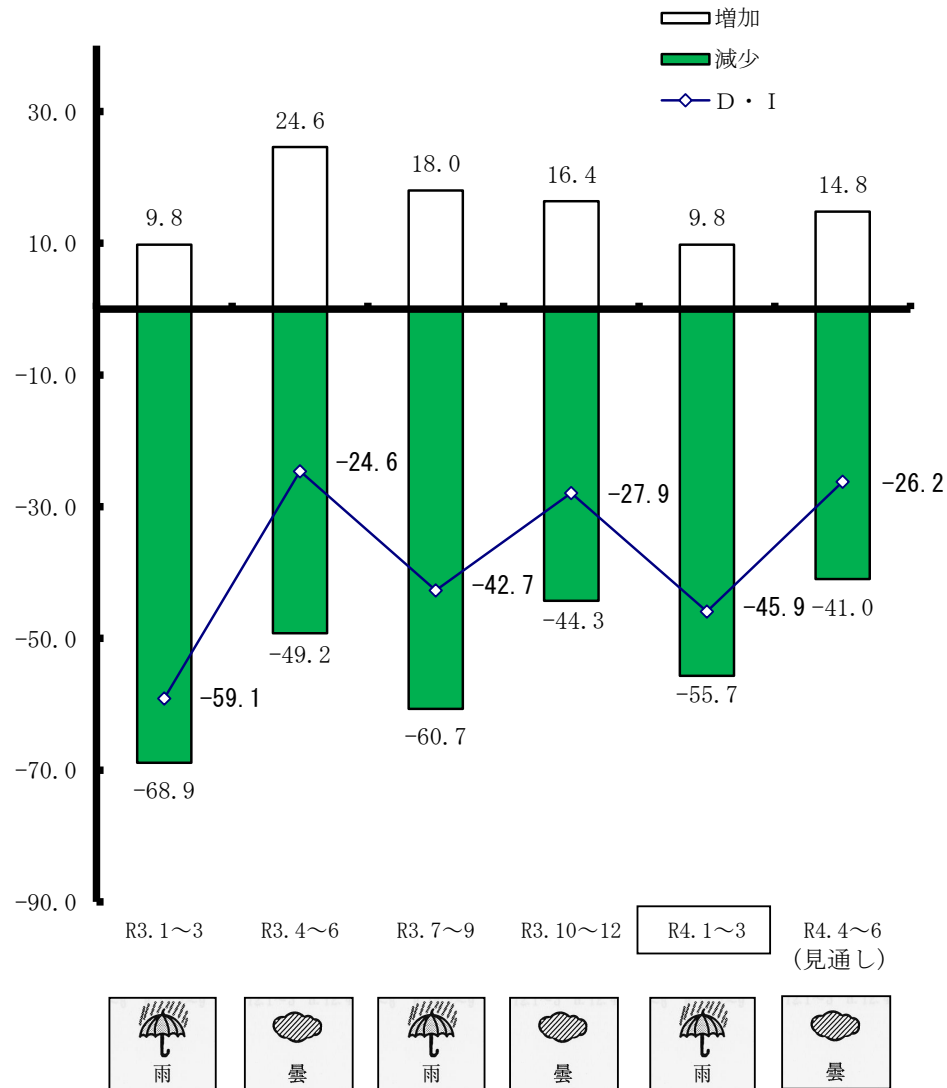
サービス業の推移

売上高



今期は、売上高増加企業の割合が減少に転じ、更に、売上高減少企業の割合が11.4ポイント増加したため、売上高D・Iは低下し、△45.9まで悪化しました。景況天気図も曇から雨へと変化しています。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が5.0ポイント増加し、また、売上高減少を予想する企業割合が14.7ポイント減少することが見込まれることから、売上高D・Iは上昇に転じ、マイナス幅を縮小する見通しです。



サービス業の推移

採算

<今 期>

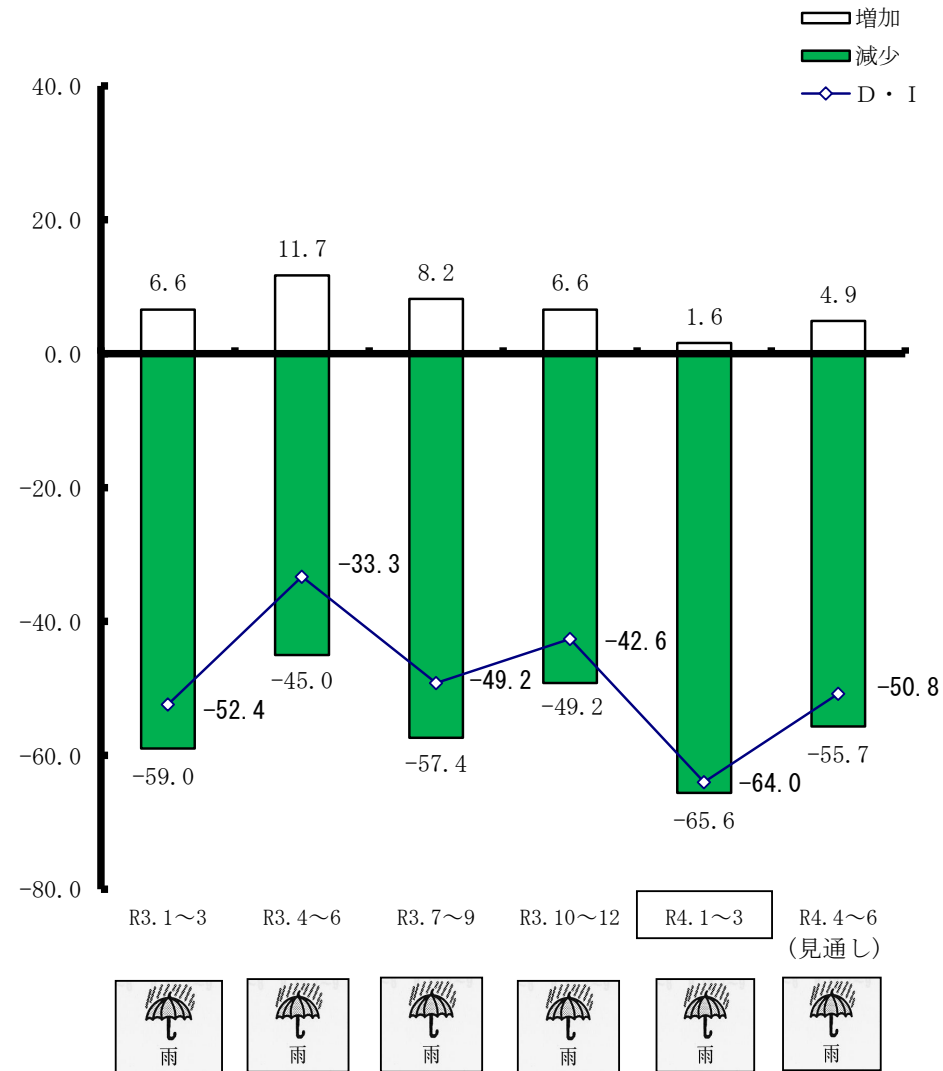


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が5.0ポイント減少し、また、採算が悪化した企業割合が16.4ポイント増加したことから、採算D・Iは21.4ポイント低下し、△64.0まで悪化しました。

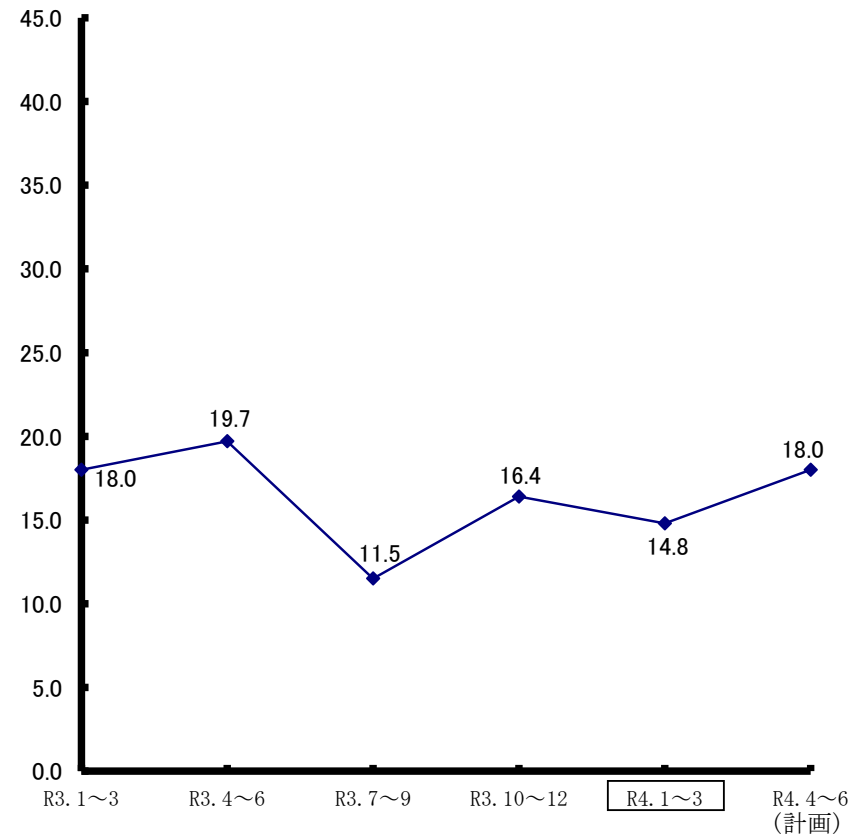
来期は、採算の好転を予想する企業割合が増加に転じ、また、採算の悪化を予想する企業割合が減少することから、採算D・Iは上昇に転じ、△50.8まで回復する見通しです。



設備投資

前期増加に転じていた設備投資を実施した企業数の割合は、再び減少に転じており、14.8となりました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は再び増加に転じ、18.0まで増加する見通しです。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

経営上の問題点

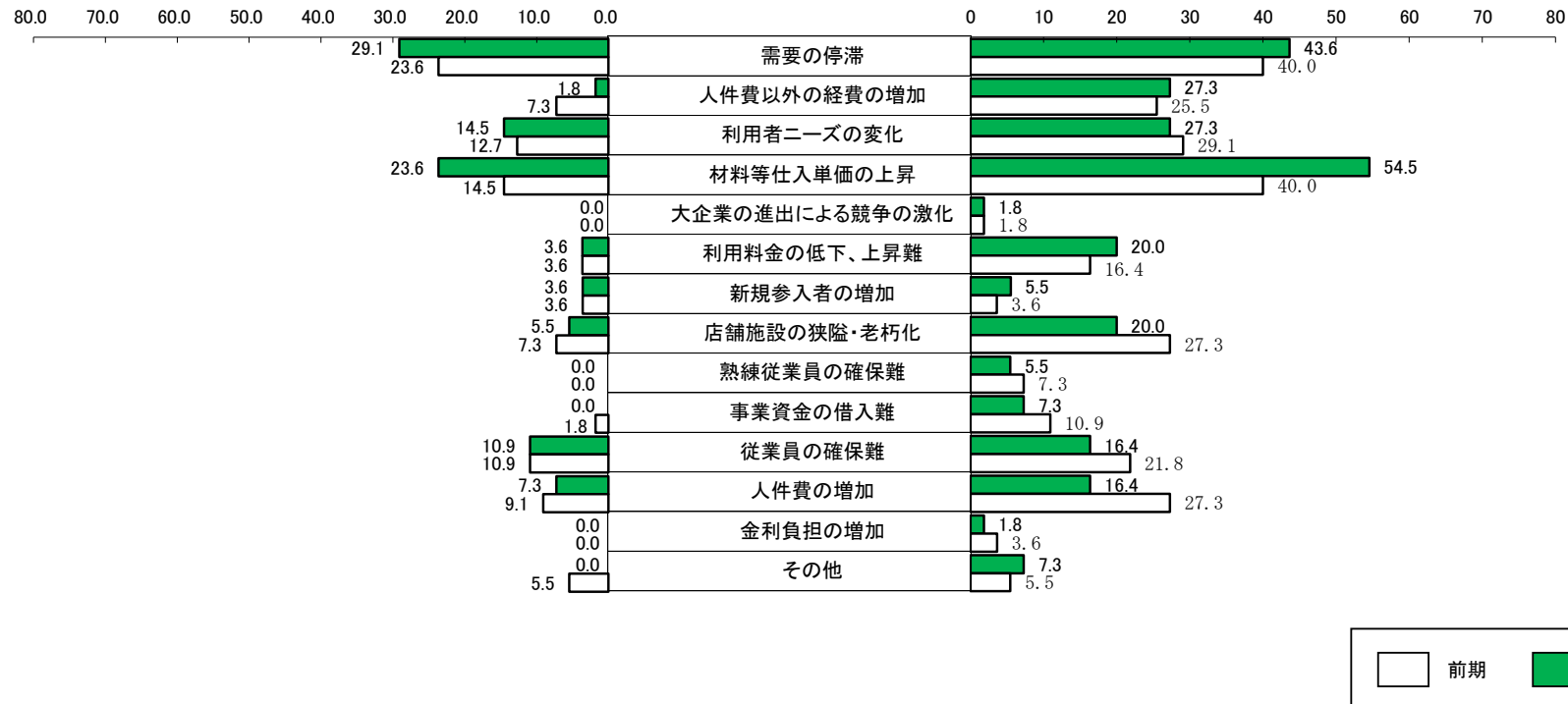
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

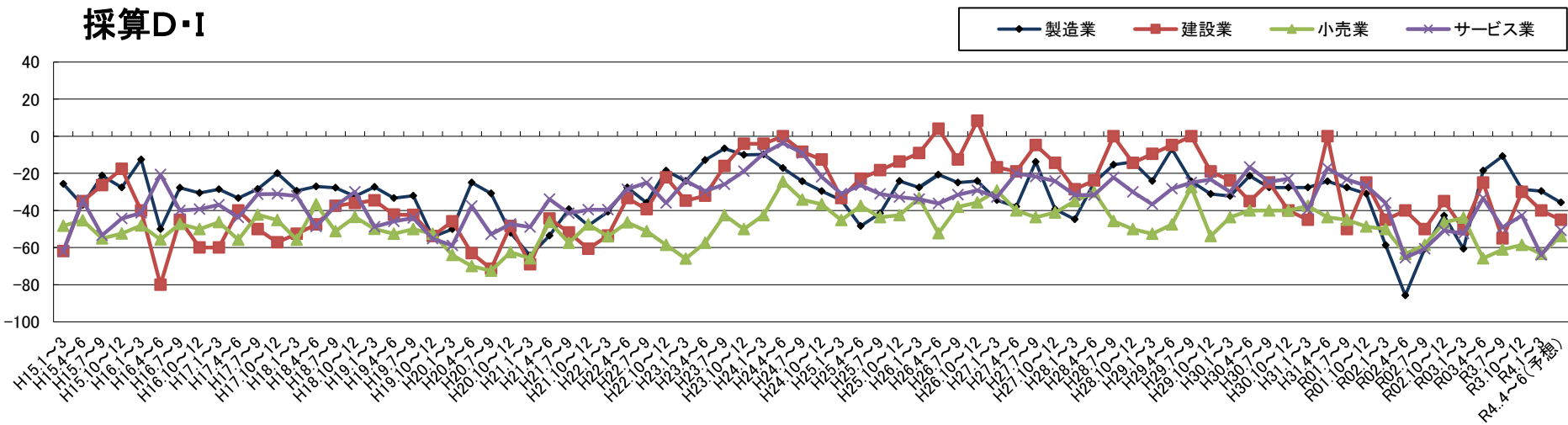
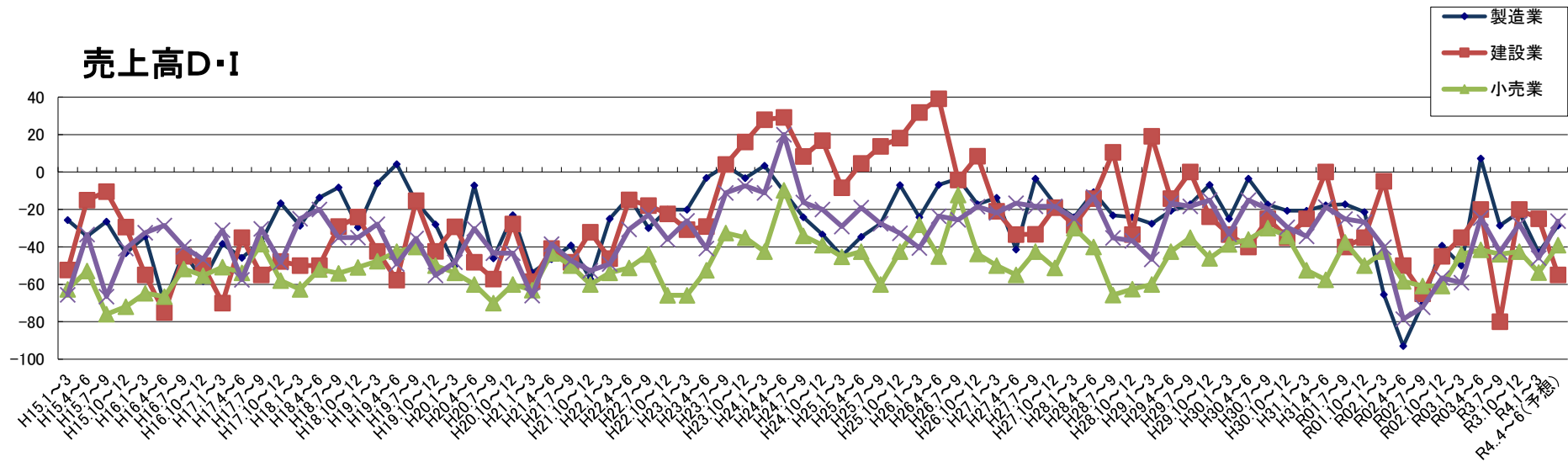
1位の問題点

1位~3位の問題点

(目盛:%)



全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)



集 計 資 料

調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 八幡平市、葛巻町、矢巾町、平泉、住田町
(商工会名) 大槌、岩泉、野田村、洋野町、一戸町
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調 査 対 象 期 間 令和4年1月～3月を対象とし、調査時点は令和4年3月1日としました。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

業種	項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)		28 (18.7)	28 (18.7)	100.0
建 設 業		20 (13.3)	20 (13.3)	100.0
小 売 業		41 (27.3)	41 (27.3)	100.0
サ ー ビ ス 業		61 (40.7)	61 (40.7)	100.0
		150 (100.0)	150 (100.0)	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。